





禊のたぐひなきと蝉鳴木々ののちわよ汗をぬぐひ
定され清ぬきしとびてのまの心しるまゝ
るゝ風をひくく流るり黒くはれしとて海
むらゝ瓶をくくく水とくくくくくくくく
みねりせ扇よかたきききききききき
のちきききききききききききききき
れきききききききききききききき
なまきききききききききききききき
とてきききききききききききききき
たぐり可なまの流るり水清きよきききき

いかにびきききききききききききききき
ら初社の日は横にわけて守れ契しつゝい
言ハ唐土人れまの信にききききききき
かきききききききききききききき
きききききききききききききき
のきききききききききききききき
うぬきききききききききききききき
おきききききききききききききき
は流きききききききききききききき
のきききききききききききききき

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style. At the bottom left of the page, there is a small rectangular box containing the number '14'.

Handwritten text in a cursive script, similar to the right page. The text is written in a fluid, connected style. In the middle of the page, there is a small rectangular box containing the Chinese characters '睡' (shuì), which means 'to sleep'.

よりの次、栲亭源子の「愛花人」の詞をうらやまらるる其詞、

野史載大江佐國者性大志、愛花嘗有六十餘回、看不足、

只他生言、作「愛花人」之句、後、後其子某、及父來告曰、

我今化爲胡蝶、每春遊于花園、其不堪感慕、多種花

本、淫蜜于花房、以供養群蝶、云其事極奇、而詩不

見、全篇因竊補之、續以後、事、余曰「愛花人」詞、

「花看換一花新、占詩、百花領九去、六十餘回、看不足、他生

言作「愛花人」

他生不待更爲人、蝶蝶居、就是後身、歲々化、成、亦、百億、醉、芳

細、了、前、回、

前回方了、舊園花、作「夜林、多、化、亦、在、亦、以、來、入、愛、不、知、
何蝶、是、誰、

聚、芳、迎、蝶、意、何、深、手、取、蜂、糖、仔、細、淋、保、回、恩、惜、也、否、這、般

難、得、憶、記、心、

迷、惑、三、生、芳、樹、處、癡、心、未、必、矣、他、家、即、今、我、也、值、華、甲、花、已

滿、園、又、買、花、

このよりの次、栲亭源子の「愛花人」の詞をうらやまらるる其詞、

野史載大江佐國者性大志、愛花嘗有六十餘回、看不足、

只他生言、作「愛花人」之句、後、後其子某、及父來告曰、

我今化爲胡蝶、每春遊于花園、其不堪感慕、多種花

本、淫蜜于花房、以供養群蝶、云其事極奇、而詩不

見、全篇因竊補之、續以後、事、余曰「愛花人」詞、

「花看換一花新、占詩、百花領九去、六十餘回、看不足、他生

言作「愛花人」

他生不待更爲人、蝶蝶居、就是後身、歲々化、成、亦、百億、醉、芳

細、了、前、回、

よめりて花よこりさあふらん 我もこしなれ
えれいハ

まよ入つこよなむしあふらんこいこい花よつげん
うれふよ親れつこよなれめて花の日あれきし
南をきするよの宮の中春あ令妃 嬪 旃 麗 花 帝 親 授 粉
蝶 放 之 随 蝶 所 正 子 之 揚 妃 專 寵 不 復 以 戲

花よ馳つらぐこいよよこいこい 翅の風ようちてめ
よよめいこいこい 翅の風ようちてめ
新撰字鏡のこいよは蝶をこいこいこいこいこい
名抄よこいこいこいこいこいこいこいこいこい

よめりて花よこりさあふらん 我もこしなれ
えれいハ
まよ入つこよなむしあふらんこいこい花よつげん
うれふよ親れつこよなれめて花の日あれきし
南をきするよの宮の中春あ令妃 嬪 旃 麗 花 帝 親 授 粉
蝶 放 之 随 蝶 所 正 子 之 揚 妃 專 寵 不 復 以 戲
花よ馳つらぐこいよよこいこい 翅の風ようちてめ
よよめいこいこい 翅の風ようちてめ
新撰字鏡のこいよは蝶をこいこいこいこいこい
名抄よこいこいこいこいこいこいこいこいこい

のらばはらけを親も来れ鐘は藤がのりかへせり
しきりしはしきりし後、天の下は惜にもあり餘わ
は是れ御子のよきまはるるにまはるるにちかき
内はきつづち栄ひもしきりしはしきりしに
よづれ言のちかきもどりひありしに
つしきりしはしきりしはしきりしはしきりし
又た改ちもも踏しきりしはしきりしはしきりし
といひしはしきりしはしきりしはしきりしはしきりし
ち自在天神と崇めしきりしはしきりしはしきりし
情のぬねはしきりしはしきりしはしきりしはしきりし

まづまづと産砂津もまづまづまづまづまづまづ
らんうし先は橋渡つゝなまのしとぬちしきりしはしきりし
と出れば南の方わづらまづまづまづまづまづまづまづ
しり里人にん田と横なまづまづまづまづまづまづまづ
島のあまのしきりしはしきりしはしきりしはしきりしはしきりし
のあまのしきりしはしきりしはしきりしはしきりしはしきりし
あまのしきりしはしきりしはしきりしはしきりしはしきりし
つゞされ市町也細川島あゝの軍のあまのしきりしはしきりし
はしきりしはしきりしはしきりしはしきりしはしきりしはしきりし
てわづらまづまづまづまづまづまづまづまづまづまづまづ

年六丁夜いよふ入て紀の三熊野よりなほひきよの昔より
うしかよわおめめどわつて御杖の斜るをまきん人の家より
逆なわとま言野のさし再び聖寶倍ふれ岡のせしむらわ倍止
ハ光仁の御裔よて修験されたる御傳入れしこと
思ひたふらふしよもひびぶらふらふてたみしつらつて御
法也とわ利を天海とハ倍ふれ御贈あなわらうし
そ取は斜るらつらつてもたれら嚴きつらつてまきわては
削るなもしし御経いさらるも納むし何れもはれ御
しんかめいんかめいんかめいん御はけ御考なむら
も考してつらんまわらう御変ち言さる御経いんわ

かめいんかめいんかめいんわらつたの下の御はけいんかめいん
むらハあぶそたかしきまら御もせらわ今新より雨に
かみしと兼道あめりまらむめれいばわて可らむ
ま思ひまらむ出る御ら京のねり人よ三言野のみ
よ可らむ雪の降ちる可らむ雨にらむらむらむ
しんかめいんかめいんかめいん御の御しんかめいん
しんかめいんかめいんかめいん御とハ又たさ物終よ
むらむれ丸のせを拾ひしんかめいんかめいんかめいん
かめいんかめいんかめいん御の中らむらむらむ
のゆふ夜しんかめいんかめいんかめいん御の御はけいん
御尊倍ふれ

しん侍をよむ... 御侍の... 神をいれ... 内おれ松杉の... 捕まれ人の... 武士の中... 取
らみて... 神は... 扇は...

肉よ... けういで... 物... の... 神... 扇... 扇は...

と暮とわづびて入ぬ大に殺れがそとてれ初の疎ハ我と
憎とてうちとめさハ物づち申しわらもうれとも
思とて御破呂て御しんこれ物の言さめろ孤ハ御骨ハ
しと取しんさせぬか

とまぬふーわおし指れ庭まふとぬそてひとわさぐ
なとて又ハ

我ふ先らてまーちの野のむのいふ我れ恨みま
今日ハ胡地のまのいふまをまぬとまぬとめわわびよ
とらんちまひては後いふまをまぬとまぬとめわわびよ
はーしんはくしんまのいふまをまぬとまぬとめわわびよ

又并むしんまとてしんて件まのまをまぬとめわわびよ
ハハ

鍾今らのいふまのいふまは波岩まのまをまぬとめわわびよ
のまのいふまのいふまは放ちてのいふまのいふまの
いふまのいふまをまぬとめわわびよとてしんて件まの
まをまぬとめわわびよ

漢高斬韓信右府滅廷尉倭大一般然韓信外臣廷尉骨
肉殘忍過漢高者矣

つゝる節々四

